

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ①グリーン・イノベーション分野(1/9)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
あわじ環境未来島特区 (兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市)	4.7	<p>4.6 <u>進捗度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー(電力)自給率 103% ・二酸化炭素排出量 117% ・再生可能エネルギー創出量 102% ・竹燃料の消費量 146% ・再生利用が可能な荒廃農地面積 104% ・新規就農者数 104% <p>等</p>	<p>4.3 <u>規制の特例等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電施設の系統連系に係る迅速な手続の明文化 <p>等</p> <p><u>財政支援等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋上風力発電の事業化可能性調査 <p><u>金融支援等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化総合特区支援利子補給 <p><u>地域独自の取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅用太陽光発電システム設置費補助金 <p>等</p>	5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定の根拠を明確に示し、ほとんどが目標値を上回っており、取組内容も多岐にわたっていることから、著しく優れている。 ・エネルギー・環境分野では、極めて高い再生可能エネルギーの普及率と特徴のある取組が達成できている。 ・エネルギー利用の観点からも、補助金とセットになった家庭エコ診断、EVのモニター事業など特色ある試みが見られる。 ・H31年度以降に大きく目標が拡大される竹燃料の消費量に対して、放置竹林の伐採を行う体制の充実化を今後、着実に図っていくことが期待される。 ・「農」と「人」の分野については、施策が効果を生ずるのに長期間を有する分野であり、その伸展は着実ではあるもののエネルギー分野ほどのインパクトは無い。今後は、特区らしく「農」や「人」とのコベネフィットの大きな施策を検討して頂きたい。 ・定住人口を回復させるため、定住人口促進方策の実効性を高める検討に期待したい。交流人口についても代理指標での評価を検討頂きたい。